

令和8年度「全国学力・学習状況調査」における南丹市の結果の概要

南丹市教育委員会

1 実施概要

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てること、さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されています。調査の内容は、次のように教科に関する調査と質問調査からなっています。調査事項は下記の通りです。

(1) 教科に関する調査（小学校：国語、算数 中学校：国語、数学及び英語）

国語、算数・数学は、冊子を用いた筆記方式（「PBT」= Paper Based Testing）で実施し、中学校英語は、生徒が活用するタブレット端末を用いたオンライン方式（「CBT」= Computer Based Testing）で実施する。

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

出題形式については、記述式の問題を一定割合で出題する。英語「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式とする。また、英語の出題には、学力の状況や変化を正確に把握することを主目的とする非公開問題を含む。

(2) 児童生徒質問調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査を、児童生徒が活用するタブレット端末を用いて CBT で実施する。

○実施日 令和8年4月23日（木）（中学校英語は別日程により実施）

○科目・時間 小学校6年生 国語（45分） 算数（45分） 質問調査（20分程度）

中学校3年生 国語（50分） 数学（50分）

英語「読むこと」「書くこと」（50分程度） 「聞くこと」質問調査（50分程度）

令和8年度の南丹市全体の調査結果をとりまとめましたので、その概要をお知らせします。調査結果はあくまでも児童生徒の学力の一部であることにご留意ください。また、質問調査は、普段の生活等に対する調査で、その回答結果からは児童生徒の今の学習状況や生活の様子についてうかがい知ることができますので、併せてお知らせします。

2 南丹市の状況について

(1) 各教科の概要

南丹市の状況を、全国の平均正答率（％）と並列して表しています。（なお、全国の平均正答率は小数第1位まで、教育委員会の平均正答率は整数までの公表とされています。）

教 科	小学校 6 年生の平均正答率			中学校 3 年生の平均正答率		
	問題数	全 国	南丹市	問題数	全 国	南丹市
国 語	13	60.9	60	15	63.9	65
算数・数学	16	56.4	57	16	57.0	58
英 語	中学校 3 年生の英語は、 <u>平均正答数</u> で公表されています。			7	3.7	3.6

【小学校 国語の概要】

○ 小学校国語全体は全国平均をわずかに下回る正答状況で、全国平均を上回った学校は4校でした。昨年度も、全国平均とほぼ同等の状況でしたので、学習指導と児童の学びが、各校で継続してよい形で進められていることが見て取れます。学習指導要領の内容別では、「書くこと（2問）」が全国の平均正答率（45.7）に対して市平均正答率（41.6）と約4ポイント下回る状況でした。課題の見られたのはその中の1問で、「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える力を育む」内容でした。問題形式は4つの選択肢から適切なものを選ぶ「選択式」でした。一方で同じ問題の中の、「記述式」の問題（文章を読み示された条件に従い、定められた時数（140字）以内にまとめて書く）は、全国平均と同様の正答状況でした。以前は「記述式」の問題での弱さがありましたが、各校の取組により書く力が育っていることが結果に表れました。（記述式の問題は全体で2問あり、全国平均正答率（54.9）に対し市平均正答率は（57.4）でした。）

【小学校 算数の概要】

○ 小学校算数は、全国の平均をわずかですが上回る結果で、全国平均を上回った学校は昨年度と同様に4校でした。昨年度も全国平均と同様の正答率でしたので、各校の学習指導と児童の学びが、全体として安定して進められていることを見ることができました。また、全国平均を十数点上回った学校もあり、学校のていねいな実践が児童の力を伸ばしていることを見ることができました。

学習指導要領の内容別では「変化と関係」の内容で、「単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味（混み具合）」や、「基準量、比較量、割合の関係」の問題で課題が見られました。（変化と関係：全国平均正答率（41.1）に対し市平均正答率は（37.3）でした。）一方で、国語と同様に「記述式」の問題（3問）で成果が見られました。（全国平均正答率（48.5）に対し市平均正答率は（53.8）でした。）示された条件を基に調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述する力や、異分母の分数の大小を判断してその理由を数や言葉を用いて記述する力、2つの表から集計に誤りのある項目を見付けてその根拠を表の中の数と言葉を用いて記述する力が育っていることが見て取れました。

【中学校 国語の概要】

- 国語全体では、全国平均を上回る結果でした。昨年度、一昨年度と全国平均を下回る状況でしたので、各校で取り組まれた生徒の課題に即した粘り強い指導や、学習のねらいに沿った授業改善、家庭学習の取組等の成果が見られました。また、学習指導要領の内容別・評価の観点別・問題形式別で大きく課題となる項目はありませんでした。プラスの結果が示されたのは、学習指導要領の内容別「情報の扱い方に関する事項」（１問）でした。「話し合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する」内容で、情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる力を問う、ICT活用にかかわる問題でした。（全国平均正答率（70.4）に対し市平均正答率は（76.4）でした。）問題形式「記述式」の問題（３問）は全国平均正答率と同等の結果（全国平均正答率（45.5）市平均正答率（45.4））で、小学校から育まれた「書く力」「説明する力」「考えを整理する力」「相手を意識した伝える力」等が中学校へ引き継がれていることを見ることができました。

【中学校 数学の概要】

- 数学全体では、国語と同様に全国平均を上回る結果でした。昨年度、一昨年度と全国平均を下回る状況で、特に昨年度は全国平均正答率 48.3 に対し市平均正答率 41 と 7 ポイント下回る厳しい結果でしたが、学校の取組と生徒の学びが一体となり成果として表れました。
学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式別においても大きく課題となる内容はなく、全体としての学校の学習指導と生徒の学びが着実に成果として表れていることが見られました。また、中学校数学では、無答率が全ての問題で全国平均を下回りました。問題に向き合い粘り強い考える力が生徒に育っていることも見ることができました。数学においても「記述式」の問題（４問）については、国語と同様に全国平均と同等の結果でした。（全国平均正答率（39.1）市平均正答率（38.9））

【中学校 英語の概要】

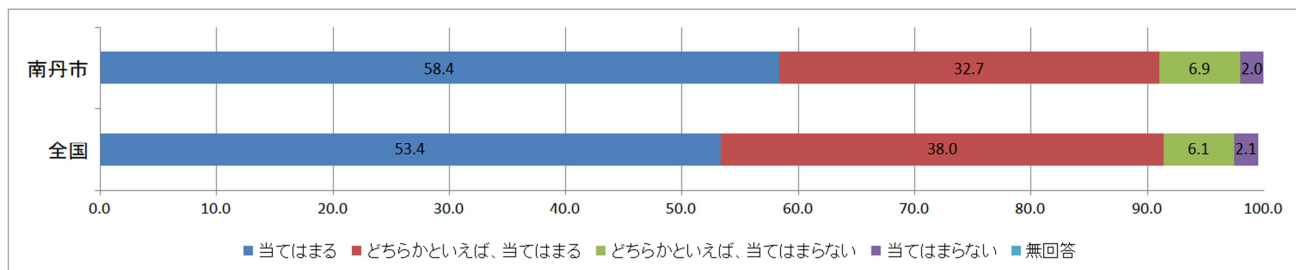
- 今年度、中学校英語は生徒が活用するタブレット端末を用いたオンライン方式（「CBT」＝Computer Based Testing）により、複数日程で実施されました。実施日により問題は、「公開問題」と「非公開問題」での構成、「公開問題」のみでの構成、で出題されました。南丹市の結果（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」について）は全体 7 問に対して全国平均と同等の正答数（全国平均正答数（3.7）市平均正答数（3.6））でした。前回、英語の調査が実施された令和 5 年度の結果、全国平均正答数（7.6）に対し市平均正答数（6.9）から、大きな改善を見ることができました。（問題数は 17 問でした。）小学校外国語活動（３年・４年）外国語科（５年・６年）で育んできた、英語に慣れ親しむこと、コミュニケーションの素地や基礎的な力、系統的な学習をもとにして、中学校英語の授業で学んだ力がよい結果で示されたと考えます。英語力とともに、思考力・表現力・説明力（全ての教育活動、教科学習において育てる力）をあわせて学びが進むことを大切にしたいと思います。

(2) 質問調査の概要

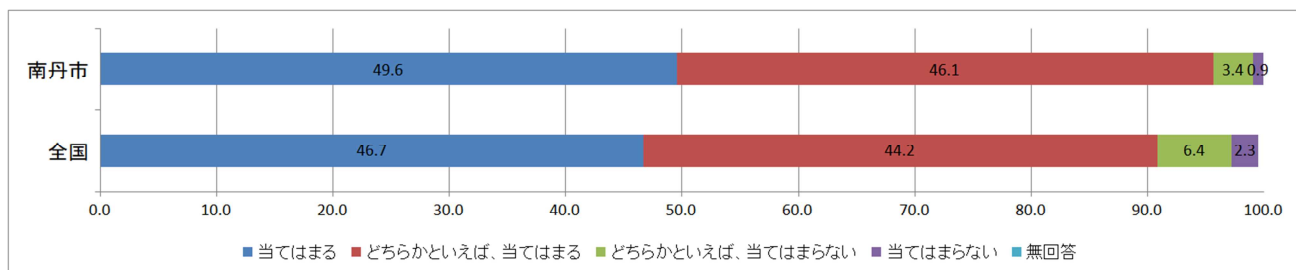
本調査は、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問項目がありました。ここでは、南丹市の結果と全国の結果を比較して特徴のある項目について取り上げます。

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

○小学校



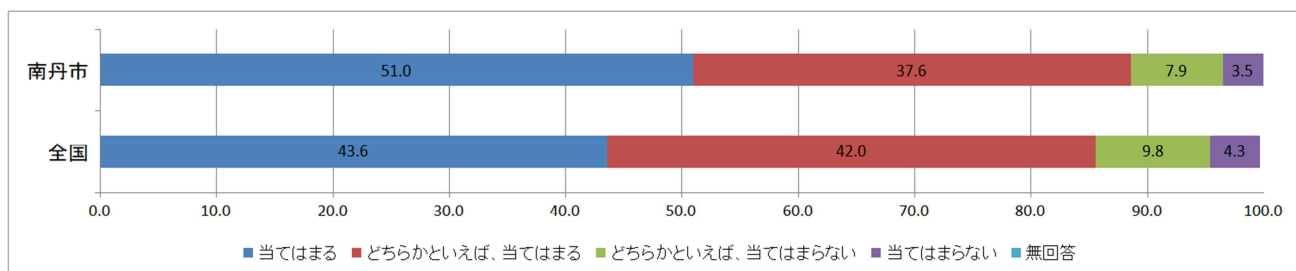
○中学校



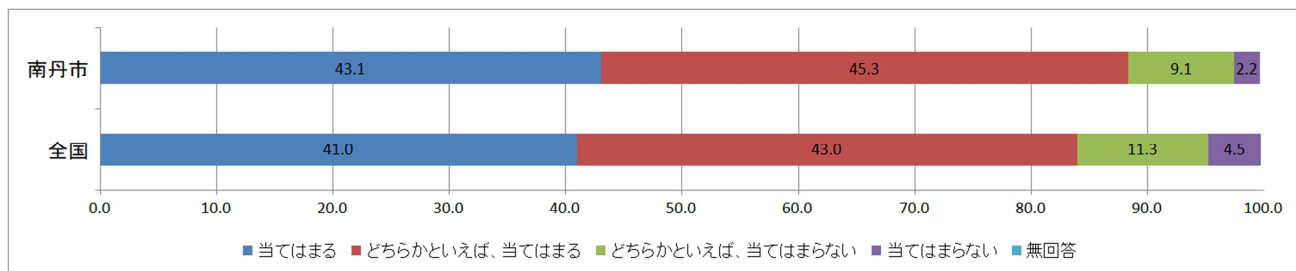
この項目は、挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等にかかわる項目です。小学校・中学校ともに肯定的な回答が全国平均を上回っていますが、小学校では「当てはまる」としっかり回答する児童が、中学校では「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的な回答が示されました。児童生徒が、日々、学び成長する大切な場である学校が、児童生徒にとって自分のよさが認められる安全で安心できる場であることはとても大切なことです。中学校に比べ、小学校で「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答している児童が一定数いることを踏まえ、より一層、心理的安全性が保たれるよう努めていきたいと思います。

自分には、よいところがあると思いますか

○小学校



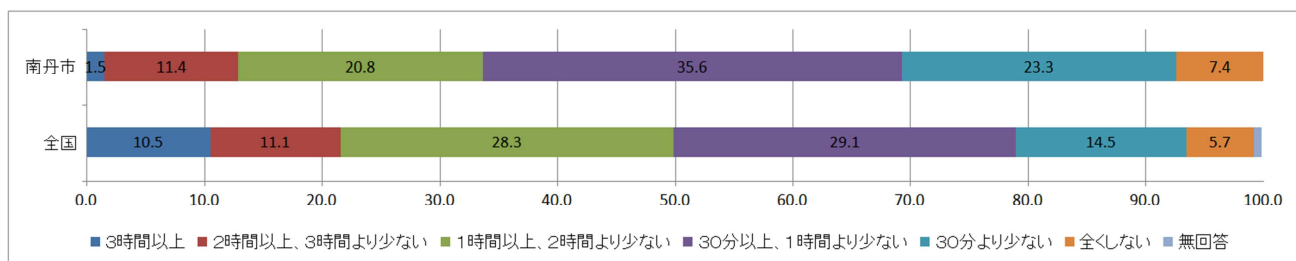
○中学校



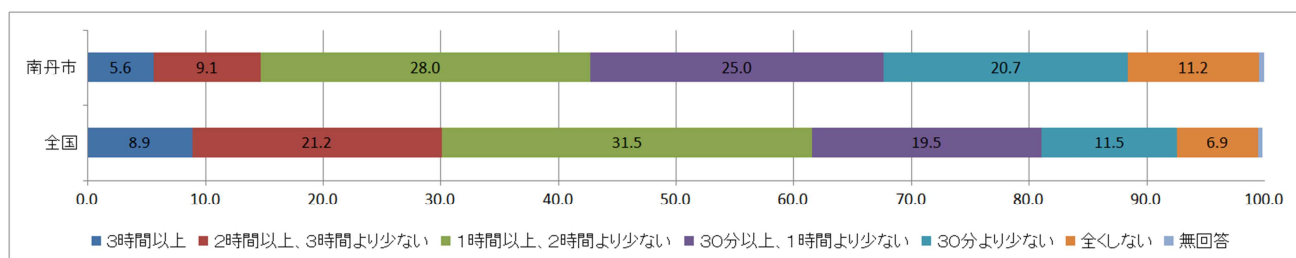
この質問項目も、挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等にかかわる内容です。先ほどの質問項目の「あなたのよいところ」（児童生徒にとっての「自分のよいところ」）を、児童生徒がどのようにとらえているか、考えているかを見ることができました。小学校・中学校ともに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が全国平均を上回り、肯定的にとらえていることがわかります。日々の家庭生活、学校生活、友人関係等々の中で、児童生徒が自分が大切にされるとともに達成感・自己有用感等を得て成長していることが見られます。さらに、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答している児童生徒に目を向けた教育実践に努めていきたいと思います。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

○小学校

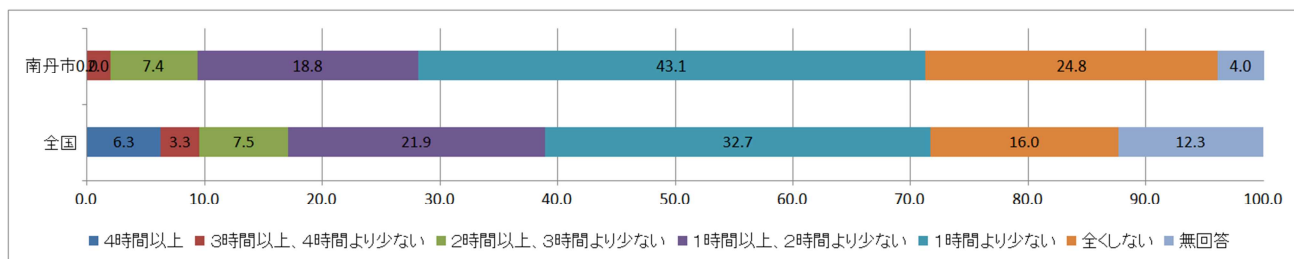


○中学校

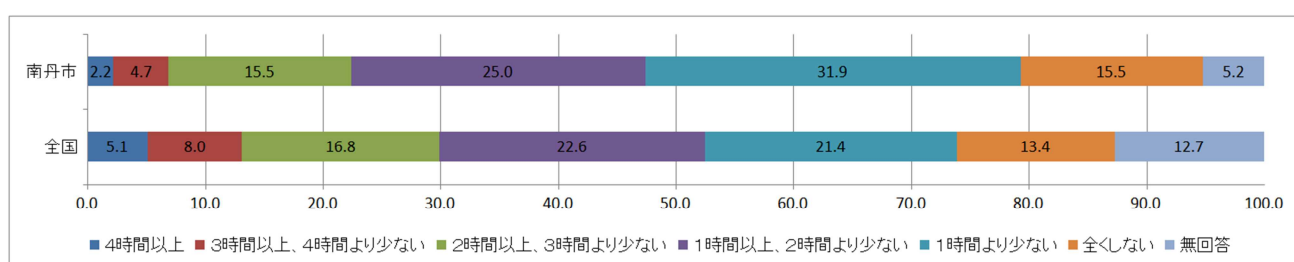


土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

○小学校



○中学校



この2つの質問項目は、学習習慣、学習環境等に関する項目です。児童生徒が平日及び休みの日の学校以外の、家庭や学習塾、インターネットを利用して学んでいる時間についての回答状況です。市の課題とする内容として、昨年度に続いて取り上げました。

平日、土曜日・日曜日、小・中学校ともに全国と比較して学習時間が短いことが課題として挙げられますが、小学校の平日「全くしない」の回答をみると、全国平均より多い7.4%ですが昨年度との比較では10.1%からの減少が見られました。1時間の授業の最後の場面で、学習のまとめを行うとともに家庭学習の内容を提示することや、家庭学習の仕方を身に付ける指導が各校で取り組まれていると考えます。中学校では、学習のための個別集中ブースの活用が進むことにより、「全くしない」生徒が2年続けて0%という学校も見られました。

児童生徒の1日の生活の中で、「ゲームをする時間」「携帯電話やスマートフォンでSNSや動画を視聴する時間」が、下校後の家庭生活の中で大きな時間を占めていること、SNS等に対する利用指導、家庭学習の時間が十分に確保されることが、これからも続けて取り組む課題です。児童生徒の主体的な学びとなる家庭学習内容への工夫改善も進めたいと思います。ご家庭での協力や子どもたちへの励ましをよろしくお願いいたします。

3 子どもたちの豊かな学びと育ちのために

南丹市教育委員会では、「第2次南丹市教育振興基本計画」及び「令和8年度南丹市教育の指針」に基づき、南丹市の児童生徒一人一人に生涯にわたって学び続けることができる基礎基本の習得を図りながら、未来に向かってたくましく生きる力を育成するために、一人一人の能力を引き出し、個性を伸ばす教育の推進に努めています。市内の各学校においては、指導の工夫・改善を図る観点に立って、この「全国学力・学習状況調査」の結果を有効活用しています。

子どもの豊かな育ちには健やかな心と体の成長が欠かせないことは勿論ですが、子どもたちが小中

学校の学習内容を十分習得することは、中学校への入学や義務教育の出口となる中学校卒業後の進路を自身で切り拓くために極めて重要であると考えています。

南丹市教育委員会は、保育所・こども園・幼稚園の就学前の段階から小・中学校が各中学校ブロックで一体となってテーマを設定した教育研究事業や、全市立小・中学校（12校）の公開授業研究会を開催して、教員が互いに学び合いながら授業力を高める取組など、南丹市教育の強みを生かして「全ての子どもの可能性を伸ばし進路を実現する教育」を進めてまいります。

これからも引き続き、保護者の皆様、市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。